

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階)

事業所番号	2793100088		
法人名	生活協同組合ヘルスコープおおさか		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ		
所在地	大阪市旭区生江2-4-16		
自己評価作成日	令和3年11月27日	評価結果市町村受理日	令和4年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

何事も入居者様と一緒にいることを基本に考えている。また、入居者様の慣れ親しんだ生活様式が保てるようなサポートを心がけている。
毎月スローガンを設定し、接遇や、チームワークなどを意識する事ができるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大小の公園が近在する住宅街に開設して9年7ヶ月余、1・2階をグループホームとし、3階の小規模多機能型との連携も良く、地域の各種イベントに参加、保育園への訪問、ボランティアの導入なども行われていた。コロナ禍の中で管理者交代(本年2月就任)があったが、永年勤続の職員集団と行政各機関の協力・助成の下に、理念とする「慣れ親しんできた生活様式を保てるように、ゆっくりと見守る」の下に、法人が第一義に提唱する「人権尊重」を基本とする職員の話し合いによる毎月のスローガンを掲げ、経験値を活かした様々な工夫と熱意で、日々の実践に取り組んでいる。居室担当者を中心に各職員が加わるアセスメントは、利用者ひとり一人をゆっくり見守りその人の意思を尊重し、持てる機能を最大限に活かすケアに繋がるとして、ケアマネジャーを中心に力を注いでいる。生活協同組合を法人とする各種の連携、医療関係については利用者・家族の安心と信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2012年5月の事業所開所時に理念を作成。事業所玄関に掲示し共有できるようにしている。	「お一人ひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます」の下、掃除・洗濯物たたみ・野菜切りなどを自然体で行うことで、その人らしい暮らしの維持を支援したいとしている。尚、開設10年を期して、既存理念を基に、地域密着を意識し、具体的な行動指針作成を検討したいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、地域のイベントや地域と共催での地蔵盆等、例年行っていた行事を実施できていない。	町内会に加入しての様々な地域行事への参加、保育園児との交流、ボランティアの導入などを行ってきているが、自粛中である。時間を選んでの周辺散歩時では、ご近所との出会いと挨拶を今まで以上に大事にし、地域との繋がりをよりよく維持したいと努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、生活協同組合の事業所として組合員に向けて行っていた学習会(定例で2ヶ月に一度組合員の班会において学習会を行っていた)が実施できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開催出来ている。 事業所への意見と共に地域のイベント等の情報も得ることで地域との交流に繋がっている。 2018年度より運営推進会議内で身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催している。	コロナ禍だが、別所にて町会長・包括職員・事業所関係者により定期に開催している。報告書として、大阪市様式を用い各種報告と関係者の意見を記載している。が、開催日時・場所・参加者名が記されていない。 身体的拘束適正化委員会について、協議内容を併記している。	地域密着型の意義を活かすべく、地域からの参加者増強への努力と、報告書内容の検討、全家族への記録配布を望む。尚、当会議において、外部評価結果の報告と改善事項についての協議をも望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の介護保険課、生活支援課と日常の相談を行っている。本年度においては新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、旭区のグループホーム連絡会(旭区内の他事業所、介護保険課、地域包括センターも参加し、情報の共有、意見交換を行っていた)が実施できていない。	公的扶助受給者の在籍で生活支援課と、管理者就任(本年2月)について各種業務の相談と指導、本年度の改正法などについて介護保険課と綿密な関係が持たれ、今後の諸事運営に活かしたいとしている。	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯を除き、玄関およびフロアの施錠はしていない。また、会議の中で身体拘束の内容を共有している。	身体的拘束適正化委員会を運営推進会議と同時に開催し、会議内容記録を併記している点と、指針について虐待防止との併記を課題とする。拘束についての研修・学習を実施し、接遇時の不適切言動についてもお互いに注意、管理者が注意するなど、拘束への認識を深めるよう努めている。	運営推進会議との同日開催は可とするが、会議の趣旨を異にすることから、独立したものとしての協議と議事録の作成、加えて、指針に関しても独立したものとすること、その内容についての精査を望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や学習会の中で虐待について周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や職場会議をつうじて周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手順書に基づいて説明を行い、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付書を作成し、運営に反映させるようにしている。	従来は家族訪問時などに意見・要望を聴いていた。6ヶ月毎のケアプラン見直し期にアンケートを同封して意見などを聴取する他、機会は少ないが、家族の必要費用持参時を活かしている。アンケートでは、コロナ禍での職員の努力への感謝の言葉が多く、具体的な意見・要望は見られない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職場会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、半期に1度職員面談を実施している。	月1回のフロアー会議や全体会議での意見・提案、日常での気づきをフロアーリーダーを通すなどで、ケアの段取りや物品購入など、内容に応じて即現場対応、法人対応で解決している。個人面談については、本年度中に実施する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則って運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1回力量チェックを行っている。また、教育訓練計画を立て研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は旭区にある6つのグループホームで、3か月ごとに連絡会を行い情報共有・連携を図っていたが、本年度はコロナ感染拡大防止に伴い行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前にアセスメントを行い、そこから必要な支援方法を考え、必要であればその他サービスの利用も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや、掃除、洗濯など入居者様と職員が一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、グループホーム通信を発行し郵送している。日々の状態変化等あれば直ぐに連絡をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	緊急事態宣言解除に伴い、ご本人自室内にて来客者1名のみ15分以内で面会を実施している。	馴染みの人や場所への積極的な関心・要求は少なく、外部からの働きかけが主であるが、コロナ禍でもあり極めてまれである。上階の小規模多機能との交流による馴染みや、生活を共にする人達との馴染みが、永い利用歴では安心の要となっているようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性やかかわりの傾向を把握し、共に生活する者同士支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたあとの訪問など、自然なつながりで支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の一言一言に耳も傾けることで、その方のニーズを把握することに努めている。	理念にある 慣れ親しんだ生活様式を保つ ためにも、その人の人生の軌跡に関心を持ち、応諾と拒否の現状を理解することが必要だとして、職員夫々の気づきを疎かにせず、日々の暮らしを支援したいと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの際に過去の本人様の暮らしをご家族様から聞くようになっている。入居後も随時入居者様本人や、家族様から話を聞く機会を持つようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状況をフローアー会議や申し送りの中で情報共有し、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのモニタリング実施。また、全スタッフがアセスメントを行うことで、現状に即した介護計画が作成できるように取り組んでいる。	モニタリングの他に、6ヶ月毎に利用者各人の担当者が、食事・排泄・入浴など9項目について記述し、加えて他の職員による記述したアセスメントをケアマネジャーが纏め、更に各職員が確認し、医師の所見や家族意見を参考に計画を作成、見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録に行っている。毎月ケアカンファレンスを行い、個々の入居者についての情報の共有、ケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に必要であろうサービスが出てきた時は、家族・診療所・その他の機関と連携してサービス提供ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大防止に伴い地域で行われているイベント等には参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携をとっている。往診は月2回あるが、体調変化時は随時往診あり。携帯電話にて24時間連絡可。	本人、家族の納得と同意を得て、24時間対応の協力医療機関をかかりつけ医としている。訪問診療は内科医月2回、心療内科医月1回(対象者のみ)、歯科医月1回(希望者のみ)を受診して、他歯科衛生士が口腔ケアの指導をしている。利用者が必要な医療を適切に受けられるように対応し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に関わらず日々の様子や体調に変化のあった時には報告を行い、必要時の受診など適切な対応が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院と情報共有を図り、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応指針書を作成し、同意を得ている。開所以降10名の看取りを行ったが、状況に応じて家族・主治医・事業所の意思確認はしっかりと行うようにしている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」と事業所の基本方針を丁寧に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、医師・看護師・家族・管理者で話し合い、本人・家族の意向を再確認して「看取り介護確認書」としている。看取りにおける研修も行い「終末期振り返りシート」に記録を残し、カンファレンスの中で話し合い、チームで支援に取り組んでいる。今年度1名の看取りがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成しているが、定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2016年度から夜間想定で地域住民も参加する形での避難訓練も実施している。今後も回数を重ねることで地域の協力体制の確立に努めていく予定。	今年度はコロナ禍もあり避難訓練は9月末に地域住民も参加して夜間想定での避難訓練、通報、消火訓練の自主訓練を実施している。今回は3月に行う予定である。災害の種類ごとに職員とよく話し合い、夜間の避難時、歩行安全のために廊下、階段の整理整頓の見直しが必要である。備蓄は別棟に水、食品等を保管している。	災害は何時来るか解らない。夜間、職員の1人体制の場合、職員だけの誘導の限界を踏まえて、日頃から家具の固定や避難通路(廊下、階段の整理)など、身近な取り組みの積み重ねが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権意識・プライバシー・接遇については、職場会議、申し送り、スローガン等で繰り返しその重要性について周知させている。	職員は人格の尊重、誇りやプライバシー、接遇などについては、お互いに認めあい尊重することの重要性を理解している。会議や申し送り時では利用者名でなく部屋番号で呼んでいる。「入室時の声掛け、トイレ誘導時は小さな声かけ」など心がけている。個人情報の取り扱いも鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする際は、必ず本人様に説明を行い、希望を聞くことで、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である「お一人おひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます。」の実現のため個別性を大切にサポートをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族から好みを聞くことや、暮らしから予想されることを日頃のケアに活かす支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきやカット、米とぎ、盛り付けなど、それぞれの方の能力に合わせて参加して頂くようにしている。	朝食と夕食は業者からの献立付き食材を調理し、昼食はチルドで届いた物を利用している。何れもご飯と汁物を作り利用者もできる範囲で米とぎ、盛り付けなどしている。誕生会や毎月1回の食事レクがあり、利用者の好みのちらし寿司、焼き肉、ホットケーキなどを一緒に作り、利用者には好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1000mlは摂って頂けるよう取り組んでいる。食事の形態や声掛けの方法など、それぞれの状態に合わせた工夫をすることでしっかりと食べて頂けるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて必要な物品を用意している。介助についてもそれぞれの状態を把握し、過度な介助の行う事の無いよう取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの能力や排泄パターンに応じた誘導や介助を行っている。可能な限りトイレでの排泄が行えるよう援助を行っている。	排泄チェック表(食糧・水分・排尿量、排便記入)を活用して、利用者個々の排泄パターンは把握している。出来るだけトイレで排泄ができるように、身体状況をみながら手引き歩行での誘導、車いすでの誘導、座位が定まらない人には後ろにクッションを挟むなど、羞恥心や不安などのへの配慮をしながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂取して頂くと共に、日常的に体を動かして頂くことや、便秘時には内服薬のみに限らず牛乳を飲んで頂くなどそれぞれに合わせた対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回は入って頂けるよう声掛けを行っている。入浴時間は基本的には午後からであるが、随時個人の要望に応えるようにしている。曜日は特に決めていない。また、ゆず風呂など季節を感じて頂けるような工夫も行っている。	浴槽は2方向介助浴槽で、入浴は週2回、午後に入浴を楽しんでいる。入浴拒否の人は日にち、時間を変えるなど、個人の要望に柔軟に応えるようにしている。石鹸は個人のこだわりがあるため個人で用意している。季節感を出すためにゆず湯、しょうぶ湯も取り入れて楽しい入浴となるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ個別の体調など状態に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容についてはフロアにファイルを用意いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・買い物など外に出る機会を多く持てるよう取り組んでいる。それぞれの方が出来る事を生かし調理やレクリエーションの場面での役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物、地域のイベントなど、外出の機会を持っていただけるよう取り組んでいる。本年度はコロナ感染拡大防止に伴い外出時の商業施設等への出入りは控え、短時間での周辺散歩を行っている。	天気が良い日には、毎日のように散歩や買い物、お弁当持参で桜見、天王寺動物園、万博公園、花博などへ行っていた。コロナ禍で外出自粛となってからは、心身の機能低下を予防したいと、事業所の周辺散歩で陽や風に当たり、各人に合わせた工夫で廊下で歩行訓練をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。お小遣い程度の金銭を自己で管理されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事業所の電話を自由に使用していただいている。また、電話設置・携帯電話等についても制限はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品作りを行いフロア内に掲示するようにしている。	食堂兼リビングには空気清浄機、加湿器が設置されて温度、湿度、換気に注意喚起している。テーブル、椅子、手すりなどにも消毒の徹底を図っている。リビングには観葉植物や季節感のあるクリスマスツリーが置かれて、壁には切り絵、次年の干支(トラ)の色紙等が飾られている。利用者が寛げるソファテレビを設置して、温かく居心地よい憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファ、玄関にはベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものやなじみのものがあれば持ってきていただき、これまでと同じように使用して頂くようにしている。	各居室は畳敷きとなって、ベッド、カーテン、冷暖房、押し入、緊急コールが設置されている。自宅から持参した馴染みの仏壇、テレビ、家族写真などが、それぞれの自分の居室として心休まる場所となって心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる・できることに配慮した環境づくりを行っている。		